

「本山寺山森林づくりの会」活動報告(10/29)

文：武田、写真：山 國

日時：2020(令和2)年10月29日(木) 9:30～15:30

気象：晴(昼の作業地点16℃)

活動エリア：44林班は-01

活動内容：モニタリング調査区の設定、枯損木・倒木の玉切りと棚積み、林床整備、

参加者：斧田一陽、倉谷、武田壽夫、中村賢三、宮本 廣、山 國

会員6名

<今夜は♪♪月も未練な 十三夜♪♪>

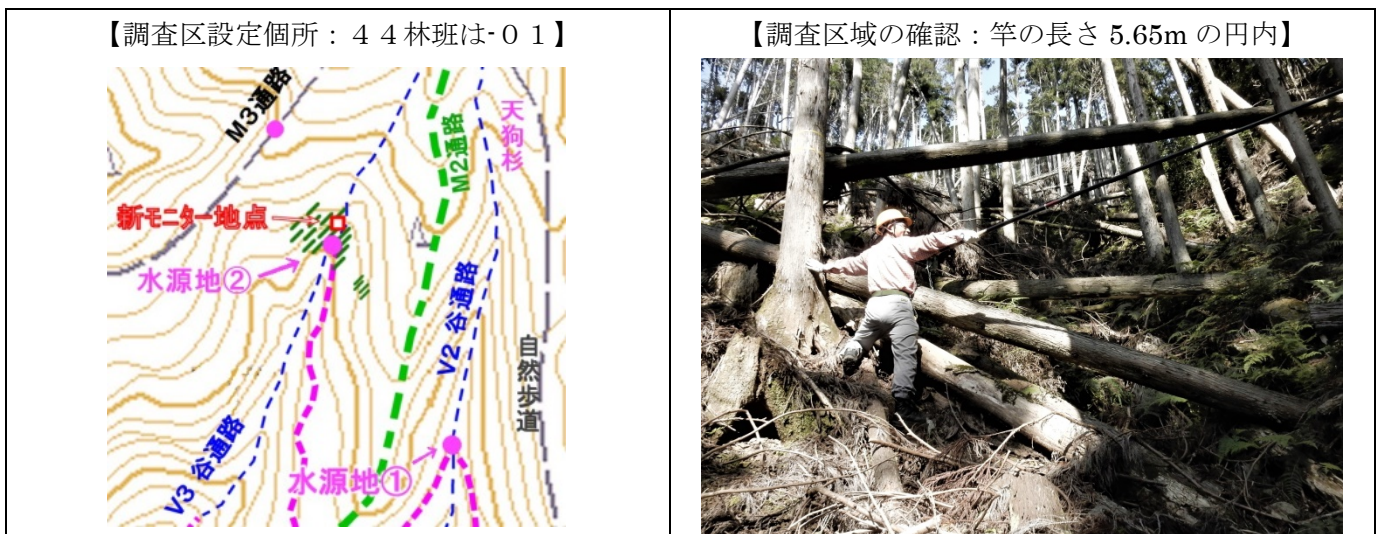
昨日の「さとり」視察時のコメントを受け、**倒木激甚エリアでのモニタリング調査区設置**を行う。位置は「は-01」内でトタン屋根の寺の水源地の上手。一昨年の台風で暴風が吹き抜け、一帯は倒木累々、惨憺たる状態のままである。西側の尾根に登る道があった筈だが、それも判然としない。調査区の設定を行い、周辺の倒木処理や臨床整備を実施。

蛇足乍ら、今日のタイトルはS35の流行歌「月の法善寺横町」の一節、歌い出しの「包丁一本 さらしに巻いて」は我々だと**「鋸一本、鞘に収めて」**か？(〇期高齢者向けの話題で恐縮)。十三夜は**芋名月、栗名月とも**、晴れた夜空の月には**ウサギさんの嬉しそうな餅搗き姿**。

<今日の成果>

調査区は中心木と外縁の立木や倒木に目印しのテープを巻く。その登り口一帯の倒木処理と林床を整備。とは言え、崩れ易い斜面、重なる倒木と難作業の連続で、滑り込んだり、重なった倒木が落ちそうになったり、とヒヤリの連続。それでも何とか土留めを一ヶ所設置、面積は20mx30m=600 m²を整備。+水源地の南では10mx5m=50 m²。倒木は中径木を10本(内大径木1本)を処理し落枝も積み上げて棚積み・土留め、このほか根起こしの、大径木一本を玉切り・枝払いするもこれは土留めに至らず”time-over”。

<写真編①>



<写真編②>

【半径 5.65m の外縁木にテープを巻く】



【溪口部から調査区を見る】



【慎重に作業開始】



【跳ねぬよう、玉切りはロープで固定して】



【作業後・手前は処理木等で作った土留め】



【バス停の拾い物：ポストの化粧直し中】

